

## 1. これまでの検討の流れ (B部会 / 安心・思いやり部会)

資料2-2

第1回全体会議 (平成22年7月29日)

第1回専門部会 (平成22年9月6日)

### 第1回専門部会の主な検討内容

新規テーマの絞り込みについて  
部会の名称について  
正副部会長の互選 について

第2回専門部会 (平成22年10月5日)

### 第2回専門部会の主な検討内容

審議テーマの具体的な検討について  
部会の名称について

第2回全体会議 (平成22年11月10日)

各委員が提案した検討テーマの内容によって、A・Bの2部会に分かれて専門部会を設置し、2回に渡り、取組内容等について検討を行った。

## 2. 第1回専門部会の検討内容

### 新規テーマの絞り込み

▶ 第1回の全体会のあと、各委員が取組テーマを提案した。この結果を、高齢者の日常生活に対するサポート体制の強化(救急医療情報を含む) 地域コミュニティ活動の推進の2つにまとめ、新規テーマの候補案とした。

#### 提案された取組テーマ

子供やお年寄りに優しい環境が整った住みよいまちづくり

高齢者を地域ぐるみで支える明るい地域社会づくり

独居の後期高齢者への身の回りサポートの実施づくり

高齢者の独り暮らしの生活不安を解消するための取組

各世帯における救急医療に対する意識の向上

川崎市の緑化推進重点地区指定に向けての取組  
(新川崎・鹿島田拠点)

地縁組織とボランティア組織が連携した  
コミュニティ活動の推進

既存施設の有効活用による住民の交流拠点整備

#### 新規テーマ候補案

高齢者の日常生活に対するサポート体制の強化  
(救急医療情報を含む)

地域コミュニティ活動の推進

## 2. 第1回専門部会の検討内容

### 新規テーマの絞り込み

- ▶ また、新規テーマの参考とするため、関連する先進事例を川崎市・他都市に分けて収集・整理し、テーマの絞り込みの議論の資料として活用した。

新規テーマ候補案	先行的な取組の例	
	川崎市内	他都市
高齢者の日常生活に対するサポート体制の強化（救急医療情報を含む）	・「いきいき大作戦」の展開	・救急医療情報キット（港区） ・救急医療情報キット（夕張市）
地域コミュニティ活動の推進	緑化推進重点地区は現在4地区が指定されており、新川崎・鹿島田地区は新規候補地区5地区のひとつに挙げられている。	・高齢者による子育て支援への取り組み（埼玉県富士見市） ・NPO法人「小杉駅周辺エリアマネジメント」によるコミュニティづくり ・小倉の駅舎「陽だまり」（幸区社会福祉協議会）

## 2. 第1回専門部会の検討内容

### （参考：先行的な取組例の一部）

- ▶ 住民交流活動拠点「小倉の駅舎 陽だまり」は、幸区社会福祉協議会の重点事業として小倉商栄会通りの空き店舗を利用して設置された。
- ▶ 施設の運営は、幸区の日吉第三地区社会福祉協議会を中心に、小倉商栄会、老人クラブ、子ども会、地区町内会連合会、地区民生委員児童委員協議会、地元町内会の6つの組織で運営委員会を構成し、それぞれの立場で関わっている。
- ▶ 現在B部会（安心・思いやり部会）で検討している新規テーマは、この取組と関連するものである。



## 2. 第1回専門部会の検討内容

### 新規テーマの絞り込み

- ▶ 各委員の提案と、それに関連した先行的取り組みの事例を組み合わせ、部会において議論する内容の例として事務局がまとめた案を元に議論を行った。

新規テーマ候補案	部会において議論する内容の例（事務局案）
高齢者の日常生活に対するサポート体制の強化（救急医療情報を含む）	支援を必要とする独居高齢者に対するサポート体制の確立方策の検討 ・所在、安否の把握方法 ・支援プログラムの構築 ・町会、自治会との連携した担い手の組織作り 川崎市の「いきいき大作戦」への参画 幸区版救急医療情報キットの社会実験に向けた取り組み
地域コミュニティ活動の推進	地縁組織とNPO等のテーマ型まちづくり組織が連携する方策を検討し、モデル的な試行を行う。 地域交流の場として活用できそうな空間（空き店舗、空き公共施設等）をリストアップし、所有者の了解の基に、その活用計画（運営主体も含め）を立案しモデル的な試行を行う。 継続検討テーマである「夢見ヶ崎周辺魅力発信事業」において市民が主体となる花いっぱい運動を行う。

## 2. 第1回専門部会の検討内容

### （部会における議論の概要と結果）

#### （主な議論）

- ・高齢者とコミュニティは密接な関係しており、本質的には同じ問題であることから、同時に取り組んでいけばよい。
- ・独居老人など、困っている高齢者の現状を把握するために、まずは調査をすることが大事である。
- ・高齢者の現状把握は、まさに時のテーマであり、今取り組むに相応しく、追い風もある。
- ・コミュニティの拠点づくりには、ハード面（設備）の整備も重要であるが、音楽やイベントなど、人が集まる仕掛けづくりも重要である。



#### （議論の結果）

- ▶ 高齢者、地域コミュニティは、ともに関連のある重要な課題であることから、両方について同時並行で審議を進めることとなった。

## 2. 第1回専門部会の検討内容

### 部会の名称

- ・部会の名称については審議を継続することとなり、各自で持ち帰り、次回の部会で提案し、その結果を元に決定することとなった。

### 正副部会長の互選

- ・互選により、正副部会長を決定した。

部会長：土倉委員  
副部会長：神谷(美)委員



## 2. 第2回専門部会の検討内容

### 新規テーマ・継続テーマの具体的取組内容(案)

- ▶ 第1回専門部会終了後、審議テーマ(新規・継続)に関し、各委員が意見を事務局に提出した。この結果とこれまでの議論を事務局が整理し、具体的な取組内容(案)として提示したものを元に議論を行った。

新規テーマ:高齢者のサポート体制と地域コミュニティ

#### 具体的な取組内容(案)

- 高齢者を中心とした多世代交流を促進するための仕組み・場づくり
- ・地域交流の場として活用できそうな空間(空き店舗、空き公共施設等)をリストアップし、所有者の了解の基に、その活用計画(運営主体も含め)を立案しモデル的な試行を行う。
  - ・学校の特別教室などを活用した「場」づくり(荒井委員)
  - ・町会、自治会等の地縁型組織、NPO等のテーマ型組織等と連携した担い手・支援体制づくり
    - ・様々な活動団体がネットワークを作り、高齢者・子育て世代など、多世代が交流できる仕組みづくりを促進(林委員)
    - ・高齢者(主に独居)と子育て世代(母親・幼児)の交流を促進し、社会的疎外の解消と生きがいづくりを促進(酒井委員)
  - ・ひとり暮らし老人への訪問(老人会等との連携、など)(鈴木委員)
- 支援を必要とする独居高齢者に対するサポート体制の確立方策の検討
- ・災害時の対応
    - ・幸区版救急医療情報キットの社会実験
  - ・市の「いきいき大作戦」との連携

## 2. 第2回専門部会の検討内容

### 新規テーマ・継続テーマの具体的取組内容（案）

継続テーマ：夢見ヶ崎周辺魅力発信事業

#### 具体的な取組み内容（案）

- 区民が主体となる「花いっぱい運動」の展開。
  - 花壇の設置や緑の保全、子どもが自然体験をするための場づくりを実施（林委員）
- スポーツや芸術（音楽）など、地域の団体と連携したイベントの実施

## 2. 第2回専門部会の検討内容

### 市担当課からの情報提供

- ▶ B部会では、新規テーマに取り組む前に、高齢者の実態について把握することが重要との議論が続いたことから、市内の高齢者に関する質問内容について、担当課からも説明を行った。

#### （説明の主な内容）

- ・高齢者を狙った詐欺については、認知症の方で、特に一度被害にあった人は狙われやすい。市では専門家に対応をお願いし、訴訟によって被害者が被った損害を無効にするなど対策しているが、詐欺を未然に防ぐ対策は取りづらい。ハンドブックを作成し、配布している。
- ・認知症高齢者の講座が病院や農協等で開かれているので活用して欲しい。
- ・高齢者で見守りが必要な人について調査した結果、9000人中42名であった。また、近年において、見守りが必要な方が市内に転入されてきた例はない。
- ・高齢者に関する情報が把握しづらいのは、個人情報保護の問題がネックとなっているから。高齢者がいる家庭の側から門前払いを受ける。特に虐待を受けている高齢者がいる家庭。
- ・把握がしやすいのは、地域で予めある程度の情報が把握されている地域である。地域で独自に情報を調べ、それをストックしておくことは個人情報保護の問題はないので、是非進めてほしい。
- ・高齢者の情報把握の上でカギを握る民生委員も高齢化している。地区により差異があるが、220～400世帯に1人の割合で置かれている。

## 2. 第2回専門部会の検討内容

### (部会における議論の概要と結果)

#### (主な議論)

##### <交流の場づくりについて>

- ・交流の拠点づくりは、高齢者・子育ての両方の解決につながる。
- ・常時開設は難しい。毎日ではなく、決められた週の開設が現実的では。
- ・空き店舗を活用するとよいのでは。(小倉の「陽だまり」は空き店舗を活用)
- ・交流の「場」は「屋内の施設」に限らない。夢見ヶ崎動物公園など屋外も「場」になり得る。
- ・周囲との交流がない高齢者については、元気な高齢者が引っ張り出してくる形がよい。

##### <救急医療情報キットの幸区版の検討について>

- ・他都市の事例だと、概ね65歳、70歳以上の高齢者に配布している。
- ・幸区の65歳以上人口は約3万人であり、無料配布をするには多額の予算が必要となってしまう。
- ・対象とともに、できるだけお金をかけない方法を検討していく。

##### <共通する議論>

- ・調査方法は課題となるが、周囲との交流がない高齢者の調査・把握が重要である。

##### <夢見ヶ崎公園の魅力発信について>

- ・お金をかけずに、夢見ヶ崎公園の魅力を高め、発信していく方法を、ソフト面から検討していく。



#### (議論の結果)

- ▶ 当面は、以下の3つの事項について取り組むこととした。
  - ア. 交流の場づくり(「陽だまり」を参考とする)
  - イ. 救急医療情報キットの幸区版の検討
  - ウ. 夢見ヶ崎公園の魅力発信(ソフト面)

## 2. 第2回専門部会の検討内容

### 部会の名称(継続審議)

- ・部会の名称については審議を継続することとなっていたが、各委員から出された案に基づき、審議した結果、「**安心・思いやり部会**」とすることとなった。

